

# 市議会報告

一般質問を通じて、主要テーマの進捗と市の答弁をまとめました。



## ◆国語教育について

現在、幼児期からの英語教育が注目されていますが、それによって日本語が理解できない子どもが増えてきています。母国語（日本語）教育の重要性について質問しました。



町田市は、国語の授業のみならず、国語科で学んだ基礎をもとに、社会科や理科でレポートを書くなど、調べたことを発表することが国語の力を育成する上で大切であるとしております。

読書習慣を身に付けられるよう、読書集会の開催等を通じて読書量の増加や質の向上を図っております。市内には、IBスクールがあるので、そちらの生徒などの協力を得るなどし、ともに学ぶ環境を整えるべきと提案しました。〈令和7年3月定例会〉

## ◆ふるさと納税について

都市部におけるふるさと納税の問題について、町田市の現状を質問しました。2023年度の受入額は、2億6,000万円で、これに対し、流出額は約20億2,000万円で、年々増加傾向にあるとのことでした。町田市の返礼品は、町田市観光コンベンション協会との連携し、地域資源を生かしたものを選定しています。



また、コロナ禍においては医療機関支援のために、現在は市民病院支援のものや、こども宅食などの子育て支援、など特色のある返礼品を準備しています。現在街路樹の間伐材で椅子などを作っているの、それを返礼品とするなど提案しました。

〈令和6年12月議会〉

## ◆有償ボランティアについて

市内で広く活用されている「有償ボランティア」について、近年その扱いが部署ごとに大きく異なり、本来の趣旨からズレ始めているとの声を受け、現状を確認しました。前年度までは会計年度任用職員が担っていた業務が、今年度は有償ボランティアとして募集されるなど、労働とボランティアの線引きが曖昧な事例も報告されています。

特に問題なのは会計処理で、乙欄で源泉徴収されているケースもあり、これは「給与所得扱い」となり、扶養の壁に直接影響します。市役所が認識を誤った源泉徴収票を発行した場合、税務署は「誤りとみなさない」可能性があり、市民に大きな不利益が生じかねません。市には明確な規定がないので、まずは現状を把握し、規定を作成するよう求めました。

〈令和6年12月議会〉

## ◆安心して遊べる公園づくりに向けて

市内には、住宅街や市の公園など各所に危険な崖地が点在しています。市民には擁壁の設置や建物整備など安全対策が求められている一方で、市が管理する公園の崖地について、どのような対策が講じられているのかを確認しました。芹ヶ谷公園では、建物整備により周辺の「レッドゾーン」および「イエローゾーン」の一部が解除される見込みで、整備を進めることで崖地の安全性は向上するとされています。



子どもたちや市民が日常的に利用する公園は、安全が最優先に確保されるべき場所であり、今後も崖地の危険性を軽減するための適切な整備が必要であると考えます。〈令和7年6月議会〉

# もっと住み良い町田、もっと元気な町田へ!! 熊沢あやりは新しい町田づくりに全力

## ◆オンライン会議について

コロナ禍においてオンライン会議が普及しましたが、運営方法において疑義があったため、確認の意味も含めて質問しました。

実際、私が都計審の会議に参加しましたが、原則オンライン、カメラオフ、会議前に聞こえていますか?と呼びかけての確認、音声不具合、会議室にいても音声が聴きとりづらいなどありました。

オンライン方式またはハイブリッド方式による会議の運営状況について実態調査を行うとともに、オンライン方式またはハイブリッド方式で会議を運営する際のガイドラインがありますので、ガイドラインの遵守を改めて全庁に周知していきたいと考えております。

オンライン会議の必要性は理解しておりますが、会議としてしっかりと開催・運営できる環境が整ってから開催すべきと考えます。〈令和7年3月定例会〉

## ◆空き家対策について

全国的に空き家の問題が話題になっているので、町田市の状況を確認しました。空き家が問題となっている自治会内で新たな開発により住宅が建設されています。



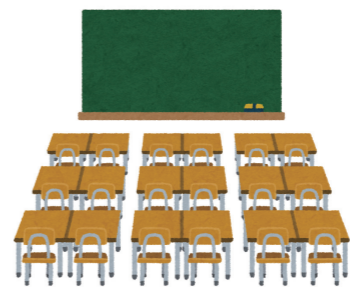
相続などで手放さざる得なかった緑や山が開発されている現状です。その緑地保全ができるよう、介在山林を雑山林にするなどし、緑を守る対策を提案しました。

市の見解は、まちづくりの観点から、都市的なにぎわいや活動、居心地のいい住環境、豊かな緑、自然、この3つのバランスがよく、身近にあることであり、これを維持していくことが重要と考え、空き家も地域の大切な資源として柔軟に活用し、町田市の魅力を生かし、伸ばしていきます。〈令和7年9月議会〉

## ◆学校選択制について

学校選択制（現在は通学緩和制度）について、市の現状と課題を確認しました。

町田では小中一貫・適正配置の議論の中でも「近隣校を選べる」という仕組みが触れられますが他市ではあまり見られない取り組みです。



市は10月の申請期限を過ぎてからの希望者も多く受入枠に余裕がある学校の2次募集やオンライン申請を導入しています。2次募集やオンライン申請を導入しています。学校説明会は同じ日程の学校が多い、また早い時期から進路を検討できるように、何日か設定し、子どもたちの選択肢が広がるよう努めてもらいたいと提案しました。〈令和7年6月議会〉

## ◆町田第三小学校跡地について

校舎移転後に活用の検討を始めると、実際の活用までに長い時間がかかってしまうため、移転後すぐに活用できるよう早い段階から地域の声を聴き、活用の方向性を定めるべきだと提案してきました。



市は、「地域の防災拠点」としての機能や、「だれも自由に使える広場」としての役割を持たせ、盆踊りや運動会など、これまで行われてきた地域活動が開催できるようにするとの考えを示しました。

一方で、町田地区以外には地域センターが整備され、センター祭りの開催など、市が責任をもって地域コミュニティの形成を行っています。こうした状況を踏まえ、町三小跡地に地域センターの設置を求めています。